

20039

インターネット VPN を利用した情報共有システムの構築

¹三重ハートセンター、²株式会社コンピューターオフィス、³三重ハートセンター

水崎 繁¹、山口 昌昭²、加藤 直義²、高井 靖³、中村 可奈³、内田 文也³、辻井 正人³、加藤 真史³、鈴木 啓之³、西川 英郎³

はじめに

政府の医療 IT 戦略により医療情報の電子化は大規模病院や新規診療所など一定程度の導入が進んできている。IT 化に伴い増え続けている医療情報を院内のみならず院外にも有効活用すべく、周辺医療機関への情報開示・情報連携、更には院外から電子カルテ接続可能な情報共有システムを株式会社コンピューターオフィスと共同構築したので報告する。

方法

異なる 2 種の暗号化通信技術を用いて院内ネットワークシステムに対し、外部からのアクセス可能なシステムを構築した。周辺医療機関との情報開示・情報連携（共有カルテ）には IP-Sec を、院外でも使える電子カルテ（モバイルカルテ）には SSL を採用した。

結果

IPSec：電子カルテサーバーに直接アクセスせず、情報連携用サーバー（共有カルテサーバー）を設置し、周辺医療機関との専用端末にてトンネリングした。PACS は別経路ネットワークでアクセスし、さらにネットワークアドレスを変化させることで、URL での繰り返しアクセスを回避した。

SSL：仮想デスクトップを採用、個人情報などデータをモバイルカルテに残すことなく、電子カルテの使用を可能とした。電子カルテには PACS や心電図情報システムなど URL 連携しているため同システムにもアクセスが可能である。

結論

インターネット VPN を利用した情報共有システムを構築した。情報の露出度や適した用途などを考慮し、異種の暗号化技術の特徴を生かすことで最低限のセキュリティを保つことのできるシステムが構築できたと考える。